

授業科目名	経済学入門（公・再履修）	担当教員名	藤井 美男				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	過去との対話を通じて学ぶ経済学「超」入門				
	本講義は、入学して間もない1年生を主たる対象として、ミクロ経済学やマクロ経済学あるいはそれらの応用編を学ぶ大前提としての基礎的な内容を軸に展開される。そもそも人間の経済的営みとは何か、という考察から始まり、現代経済社会の基本的特徴と意義の把握、それが形成されてくる背景と理由、経済「世界」を眺めるさまざまな視点、そしてミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的把握などが内容となる。				
到達目標	経済について一定の関心を持てるようになる。また、経済的現象について一定の考察をすることができるようになる。そして、経済的事実や経済学的用語などを必要な文脈に沿って的確に説明できるとともに、自己の見解を述べることができるようになる。				
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考		
	平常点				
	小テスト	10	中間ミニテスト（あるいはミニ課題）を全体評価の10％とする。（予定）		
	レポート				
	定期試験	90	定期試験の結果を全体評価の90％とする。（予定）		
	その他				
事前・事後学習	本講義は特定の教科書を定めず、事前に配布（配信）するPDFファイルの資料を用いるノート講義とする。事前にそれを読読して大まかな内容を把握しておく必要がある。そして、授業後はその内容を反復しつつ自分なりに整理することで、経済学に関する基礎知識を涵養することができる。				
事前受講を推奨する科目					
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』				
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『授業の中で随時紹介する』				
備考	本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンデマンド授業に変更することがある。講義資料のダウンロードや授業の詳細については、Googleclassroom 等を通じて通知されるので、遺漏しないよう留意することが必要である。なお、授業の内容と進行についてシラバスに変更を加えることがある。その場合は授業中に説明する。				

授業の計画		
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、講義全体像の紹介（シラバス参照）
2	「経済」とはなにか	コロナ・パンデミックで露わとなった人間の「経済的営為」の本質
3	現代経済社会の特質とはなにか	資本主義社会の特徴をつかむ
4	市場型経済社会の成立過程（１）	パックス・ブリタニカに至る道を事例として（１）
5	市場型経済社会の成立過程（２）	パックス・ブリタニカに至る道を事例として（２）
6	経済的合理性とはなにか（１）	経済的合理性（＝資本主義の精神）の源流（１）
7	経済的合理性とはなにか（２）	経済的合理性（＝資本主義の精神）の源流（２）
8	中間ミニテスト（あるいはミニ課題）実施	１０点満点のミニテスト(あるいはミニ課題)を実施（予定）
9	様々な経済観（１）	アダム・スミスからウォーラステインまで（１）
10	様々な経済観（２）	アダム・スミスからウォーラステインまで（２）
11	経済学「超」入門（１）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（１）
12	経済学「超」入門（２）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（２）
13	経済学「超」入門（３）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（３）
14	経済学「超」入門（４）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（４）
15	全体のまとめ	本講義の全体的な整理と総括

授業科目名	経済数学 1組	担当教員名	野津 隆臣				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本科目では「経済学に必要な数学」を学ぶ。大学の経済学の授業を理解するため、それから経済学の文献を独力で読み進める際に知っておくといふ数学の「定理や公式」を学ぶ。 中高の数学の復習を交えながら進める。中高の数学の復習は数学好きにとっては物足りなく感じるかもしれない。しかし、「定理や公式の導出方法の厳密な理解」や、それらの数学をどのように経済学に応用するかを併せて学ぶことで、数学好きにとっても楽しんで学習を進められる授業構成としたい。			
到達目標	経済学部で経済学科目の授業内容を理解するために必要な数学を理解する。 ・1次関数のグラフを描け、連立方程式の解との対応を直観的に理解できる。 ・指数や対数が経済学でどのように用いられるか理解し、それらの計算ができる。 ・微分の計算をできる。 ・微分を用いて経済学の最適化問題を解ける。			
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考	
	平常点	30	練習問題など	
	小テスト			
	レポート			
	定期試験	70		
	その他			
事前・事後学習	毎回の授業の復習として、4時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。それをふまえて練習問題（授業中に指示される）などを解くこと。			
事前受講を推奨する科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
		教科書は使用しない		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
備考	教科書は指定せず講義スライドを用いて授業を進める。掘り下げて勉強したい人に対して、おすすめの参考書等を別途教示する。			

授業の計画		
1	イントロダクション	事前準備として、授業で必須となる基本的な計算について確認する
2	グラフの読み方	需要と供給のグラフを用いてグラフの読み方を学ぶ
3	1次関数	1次関数と1次関数のグラフを学ぶ
4	連立方程式	直線の交点と連立方程式の解が一致することを学ぶ
5	指数法則	指数法則を理解する
6	対数法則	対数法則を理解する
7	単利と複利	指数法則、対数法則を復習し、複利計算をする
8	投資・貯蓄	指数法則、対数法則を復習し、貯蓄・投資の考え方を学ぶ
9	数列	数列について学び、貯蓄・投資の考え方を学ぶ
10	微分の定義	微分の定義を学び、定義に従って微分をする
11	微分の計算	微分の意味を知り、べき関数を微分できるようになる
12	最適化問題（1）	微分をつかって効用最大化問題などを解く
13	最適化問題（2）	微分をつかって効用最大化問題などを解く
14	微分の計算の応用	微分計算をする際に便利な公式を理解する
15	全体のまとめ	全体のまとめを行う

授業科目名	日本経済論 1組	担当教員名	川波 洋一				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本講義は、主として戦後の日本経済の変遷をたどりながら、わが国経済が抱えている問題、政策的な特徴、世界経済におけるポジション、これからの日本経済について考える。大学に入学して最初に聴く講義であるという点に鑑み、できるだけ経済学への誘いとなるように平易に講義を進める。その際、物価、インフレ・デフレ、景気循環、不況や好況、経済成長、財政政策や金融政策などの経済政策、雇用や社会保障、産業構造や日本型経営、アジア経済や世界経済との関連、日本経済の未来など、基本的な問題についての知識が深められるようになることが目標である。経済学においては、専門的な用語を使うことがあるが、じっさいはわれわれの身の回りで起こっている身近な問題であることを実感してほしい。そうすることによって、受講者は、日本や世界で現実には生起するさまざまな経済問題に対する関心を持つようになることが大切である。受講者には、日本や世界で起こっている経済現象に目を向ける意味で、日々新聞に目を通すこととを薦めたい。				
到達目標	本講義の到達目標 ・新聞や雑誌等の媒体を通じて経済現象を観察できるようになること。 ・基本的な経済学の用語に慣れ、日常的な学習において使えるようになること。 ・大戦後の日本経済の大まかな流れと現時点において日本経済が抱える問題を把握すること。 ・世界経済のなかでの日本経済の位置付けや他の国々との関係について説明できるようになる。 ・日本経済の将来について展望を持ち、他の人に語れるようになること。				
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考		
	平常点				
	小テスト				
	レポート				
	定期試験	100	講義の内容に関する問題について記述式にて解答。		
	その他				
事前・事後学習	指定するテキスト参考書について事前に目を通し、予習をしておくこと。また、日々起きている経済現象に関心を持つことが大切である。そのためには、『日本経済新聞』をはじめとする新聞や雑誌（エコノミスト誌や週刊東洋経済など）に目を通し、経済現象の観察をすること。自然科学者が自然現象を観察するのと同様に、経済学を学ぶものは、日々生起する経済現象を観察する態度を身につけることが大切である。				
事前受講を推奨する科目	経済学入門				
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『現代日本経済』		橋本寿朗他著	有斐閣	2019年
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『現代日本金融論(新版) 第Ⅱ部』		川波洋一・上川孝夫 編著	有斐閣	2016年
	『最新日本経済入門（第6版）』		小峰隆夫・村田啓子 著	日本評論社	2020年
備考					

授業の計画	
1 日本経済論では何を学ぶのか？	1. 経済学って何だろうか？ 2. 日本経済論ではどのようなことを学ぶのか？ 3. 日本経済論を学ぶことの大切さ 4. 今日のまとめ
2 現代の日本経済を見る目を養う	1. 現代の日本経済を見る目を養う 2. どのような観点から日本経済を見るのか？ 3. 日本経済の現状 4. 今日のまとめ
3 戦後の日本経済の歩み	1. 戦後日本経済の枠組み 2. 日本の経済復興 3. ドッジラインと市場経済への移行 4. 今日のまとめ
4 日本の高度経済成長	1. 日本の高度経済成長—どのようにして豊かになったのか？ 2. 産業構造の高度化 3. 様々な産業政策の導入 4. 今日のまとめ
5 成長を支えた仕組み	1. 成長を支えた仕組みはどのようなものであったか？ 2. 労働 3. 資本 4. 技術
6 日本経済の転機	1. 日本経済の転機—二つのショックー 2. 石油危機とスタグフレーション 3. 安定成長への移行 4. 今日のまとめ
7 赤字国債の発行と日本企業の国際競争力	1. 赤字国債の発行 2. 増税論と行財政改革 3. 日本企業の国際競争力 4. 今日のまとめ
8 バブルの形成と崩壊	1. アメリカ経済との関係 2. バブルの形成 3. 資産価格の下落と実体経済の縮小 4. 今日のまとめ
9 グローバル化のなかの日本経済	1. 債権大国への道 2. 金融自由化と金融ビッグバン 3. 日本的システムの確立 4. 今日のまとめ
10 長期停滞のなかの日本経済	1. 失われた30年への道 2. デフレの深刻化 3. 財政赤字の深刻化 4. 今日のまとめ
11 日本企業の海外進出	1. プラザ合意 2. 海外直接投資と新興経済圏の経済成長 3. アジア経済と日本経済 4. 今日のまとめ
12 日本型システムの転換	1. 企業システムの転換 2. メインバンクシステム 3. 雇用システムの変容 4. 今日のまとめ
13 アベノミクスの実験	1. 3本の矢とアベノミクス 2. ゼロ金利から量的金融緩和政策へ 3. 成長戦略の意味 4. 今日のまとめ
14 グローバル経済の変曲点と日本経済	1. アベノミクスの成果は何だったかの？ 2. 成長と分配の好循環 3. アベノミクスの転機 4. 今日のまとめ
15 日本経済の未来	1. 低い成長率 2. 日本が抱える構造的な問題 3. 日本経済に未来はあるか？ 4. 今日のまとめ

授業科目名	商学総論	担当教員名	柳 純				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本講義は初年次における商学を理解するために設けられています。生産と消費の諸活動をつなぐ重要な役割を果たしているのが流通であり、その主体となるのが卸売業、小売業を中心とした商業になります。本講義では商業の意義や役割、現代の商品流通の仕組みについて説明していきますが、近年、商業を取り巻く環境も劇的に変化していることを鑑みて、具体的な事例を盛り込みながら講義を進めていきます。講義前半部分では、商業の生成、商業構造を知るとともに流通機能についても理解を深めながら小売業態の変遷を分析・検討します。そして、後半部分では商店街やショッピングセンターである商業集積、さらには無店舗販売における知識を深め、今日の商業が国際化している点やその展開について紹介していきます。			
到達目標	商学に関する基礎知識を習得し、専門用語について理解することができる。 商業が担う役割や商業存立の意義について説明することができる。 商品流通に関する興味や関心をもつことができる。			
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考	
	平常点			
	小テスト			
	レポート			
	定期試験	80	定期試験期間中に実施します	
	その他	20	課題の提出状況で評価します	
事前・事後学習	事前学習として、下記のテキスト、参考書をはじめとし商学や商業に関する専門書を事前に熟読すること。 事後学習は、毎回配布する資料の内容を再度確認し、専門用語やポイント等を各自で整理しておくこと。			
事前受講を推奨する科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『流通と商業の基礎理論（改訂版）』	岩永忠康ほか	五紘舎	2024年
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『新・流通と商業（第6版）』	鈴木安昭	有斐閣	2016年
	『商学への招待』	石原武政・忽那憲治編	有斐閣	2013年
備考	(1) 授業形態：対面授業 (2) 授業資料の配信方法：Google Classroom（配布資料をアップロードします） (3) 授業資料の配信スケジュール：毎週火曜日18時まで (4) 質疑応答、意見交換の方法：講義終了後またはメールで実施			

授業の計画		
1	講義ガイダンス	講義概要、成績評価・方法などを説明する。
2	商業の基礎概念（１）	商学を取り巻く学問領域および商学と商業学の体系について解説する。
3	商業の基礎概念（２）	商業の生成と商業機能および商業の概念について解説する。
4	流通機構	商品流通の態様や商業の役割および商品流通のタイプについて解説する。
5	日本の流通システム	日本の流通システムおよび取引慣行について解説する。
6	卸売業（１）	卸売業の位置づけやその機能や特性について解説する。
7	卸売業（２）	卸売業の経営およびリテールサポートについて解説する。
8	小売業（１）	百貨店の生成とその展開について検討しながら解説する。
9	小売業（２）	専門スーパーマーケットと総合スーパーマーケットに関して解説する。
10	小売業（３）	コンビニエンス・ストアに実態把握と可能性について解説する。
11	小売業（４）	その他の業態（ディスカウントストア、製造小売等）に関して解説する。
12	商店街とショッピングセンター	伝統的な商業集積（商店街）と計画的な商業集積（ショッピングセンター）について解説する。
13	無店舗販売（１）	無店舗販売の実態や商取引の電子化に関して解説する。
14	無店舗販売（２）	無店舗販売における事例研究の紹介をします。
15	商業の国際化	商業の国際展開と外資参入とその事例研究。

授業科目名	経営学入門	担当教員名	西田 郁子				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	本講義では企業とは何か、経営学とは何か、われわれの社会や生活にどのように関係しているのかを考えます。人間は一人では大きな仕事はできません。そのため組織というものが生まれます。その組織はどんな原理で運営されたときに効率的で、社会的に有益なものになりやすいのかを議論するのが経営学です。 「経営学」と聞いてみなさんは「経営者のための学問」、「お金儲けの学問」を連想するかもしれません。そのような側面もあるかもしれませんが、それだけではありません。経営学を学ぶことは世の中をより良きものとする術を会得することでもあります。マネジメント能力はどのような職業に就くにしても必要です。			
到達目標	・経営学の入門的な知識についてその内容を理解する。 ・企業の諸問題について関心を持つ。 ・サークルなど身近な組織の運営の諸問題に関心を持つ。			
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考	
	平常点	30	課題等の提出状況で評価します	
	小テスト			
	レポート			
	定期試験	70		
	その他			
事前・事後学習	事前学習として、下記のテキストの該当箇所を事前に熟読すること。 事後学習は、配布資料を再度確認し、専門用語やポイント等を各自で整理しておくこと。			
事前受講を推奨する科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『現代の企業経営』	西田 安慶・林純子	三学出版	2021年
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ゼミナール経営学入門 第3版』	伊丹敬之・加護野忠男	日本経済新聞出版社	2018年
	『1からの経営学<第3版>』	加護野忠男・吉村典久	碩学舎	2021年
備考				

授業の計画		
1	ガイダンス	経営学の全体像
2	現代企業とその社会的役割	さまざまな企業形態と株式会社の基本的な仕組み
3	コーポレート・ガバナンス	今日の企業統治の課題
4	経営戦略（１）	経営理念と戦略
5	経営戦略（２）	競争戦略のマネジメント
6	経営戦略（３）	多角化戦略のマネジメント
7	経営組織（１）	基本的な組織構造の枠組みと特徴
8	経営組織（２）	やる気(動機づけ)の重要性 インセンティブ・システム
9	経営組織（３）	やる気(動機づけ)の重要性 リーダーシップ
10	マーケティング	マーケティングの基本概念
11	生産管理	企業はどのようにしてモノをつくるのか
12	国際経営	国境を超えて展開される企業活動のマネジメント
13	デジタル経営	進化したICT（通信情報技術）を活用して、良いことを上手に実現する方法
14	財務管理	企業はどのように資金を調達し運用するのか
15	アントレプレナーシップ	アントレプレナーシップの社会的意義

授業科目名	ミクロ経済学（公）	担当教員名	野津 隆臣				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	ミクロ経済学の基礎的な知識や考え方を学ぶ。ミクロ経済学には幅広いテーマがあるが、本講義では市場の理論を中心に学ぶ。消費者行動、企業行動、市場均衡といったトピックスを紹介し解説を行う。また、理論を応用して経済政策について考える。 講義ではグラフを用いて解説するため、高校数学の関数とグラフについて復習しておくこと。				
到達目標	事例や図解を通じて以下の点を理解することを目標とする。 ミクロ経済学の用語を理解する。 関連した図の解釈や曲線などの移動の条件がわかるようになる。 ミクロ経済学の知識を用いて、現実事象の説明ができるようになる。				
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考		
	平常点	30	ミニットペーパー		
	小テスト				
	レポート				
	定期試験	70			
	その他				
事前・事後学習	事前学習：講義資料を活用し、講義内容を把握してくるようにすること。 事後学習：講義中の解説について内容をまとめる、グラフの解説は文章化しておく、計算例は計算過程を復習すること、講義中に問いかけを提示するのでそれを考える、講義内容と関連するトピックを参考書等で掘り下げる。				
事前受講を推奨する科目	新聞や経済雑誌を読み、経済に触れておくことを推奨する。				
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年
			教科書は使用しない		
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門 ミクロ編』		ティモシー・テイラー	かんき出版	2013
備考	上述の事後学習の に関して、掘り下げて勉強したい人に対してはおすすめの参考書等を別途教示する				

授業の計画		
1	イントロダクション	ミクロ経済学はどのような学問か知る
2	需要と供給	市場、需要及び供給の概念を理解する
3	消費者行動（１）	需要の法則について知る
4	消費者行動（２）	消費者の意思決定について考える
5	消費者行動（３）	第3回の需要の法則と消費者の意思決定について考える
6	価格弾力性	需要曲線の特徴を学ぶ。価格弾力性の考え方を説明できるようになる。
7	生産者行動（１）	供給の法則について知る
8	生産者行動（２）	生産要素、費用について考える
9	生産者行動（３）	供給曲線について学ぶ
10	市場均衡（１）	市場均衡の概念を理解する
11	市場均衡（２）	超過需要、超過供給からの均衡までの調整過程について学ぶ
12	価格統制と規制	経済政策のひとつである価格の上限規制や、市場への規制の影響について考える
13	市場の失敗（１）	外部性の概念を理解する
14	市場の失敗（２）	公共財の概念を理解する
15	まとめ	これまでの学習内容のまとめと補足を行う

授業科目名	マクロ経済学（公）	担当教員名	磯谷 明德				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	マクロ経済学は、経済を巨視的にとらえ、経済全体の性質について考えようとする経済学の分野である。マクロ経済学は、景気、雇用、物価、通貨、為替など、経済全体に関わる問題を対象にする。本講義では、マクロ経済学の基本的な概念や考え方を理解することに主眼を置き、「なぜマクロ経済学は必要か」から始めて、一つのストーリーとしてマクロ経済学という学問を理解できるような形で講義する。 なお、この「マクロ経済学」では、マクロ経済学という学問全体の6割程度の内容が講義される。残りの4割程度については、「マクロ経済学（2年次春学期）」で講義されるのを注意して欲しい。 上で記述のように、マクロ経済学 は2年次春学期に開講される。マクロ経済学 に続いて、マクロ経済学 を連続して履修することを強く推奨する。			
到達目標	・ マクロ経済学の基本的な概念を理解する。 ・ 現実のマクロ経済の動向をマクロ経済学の基礎的な知識と考え方を用いて理解することに関心を持てるようになり、今後のより専門的な経済学の学習の基礎的な素養を習得することを目指す。 ・ マクロ経済学の基礎知識を身につけることで、日ごろ見聞きする経済ニュースに直結する経済現象や政策について、自分なりの判断や評価ができるようになる。			
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考	
	平常点	30	ミニッツペーパーの提出	
	小テスト	20	理解度確認テスト。複数回実施予定	
	レポート			
	定期試験	50	期末試験	
	その他			
事前・事後学習	事前学習として、前回の講義内容を復習しておくこと。毎回の講義に対して、ミニッツペーパーの提出が必須なので、講義内容への疑問点などを事後学習として整理すること。			
事前受講を推奨する科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
備考				

授業の計画		
1	授業ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法・基準などについて説明する。
2	なぜマクロ経済学は必要か	ミクロ経済学とは別個に、なぜマクロ経済学という学問分野が存在するのかについて説明する。
3	なぜマクロ経済学は必要か	第2回講義の続き
4	国民所得の測定	GDPとは何かなど、国民所得統計について説明する。
5	国民所得の決定 -1	消費関数と45度線分析（前編）
6	国民所得の決定 -2	消費関数と45度線分析（後編）
7	国民所得の決定 -1	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（前編）
8	国民所得の決定 -2	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（後編）
9	国民所得の決定 -1	乗数理論（前編）
10	国民所得の決定 -2	乗数理論（後編）
11	国民所得の決定 -1	投資関数：投資と利子（前編）
12	国民所得の決定 -2	投資関数：投資と利子（後編）
13	国民所得の決定 -1	利子と貨幣（前編）
14	国民所得の決定 -2	利子と貨幣（後編）
15	IS-LM分析	ケインズ体系とIS-LM分析

授業科目名	経済原論（国・公）	担当教員名	関野 秀明				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この講義のねらいは、今、私たちが暮らしている社会の基本システムである「資本主義」が私たちを取り巻くさまざまな人間関係に及ぼす肯定的、否定的影響を与えてきたかについて理論的に考えることです。なぜ人間が作り出した「貨幣」が人間を支配するようになったのか、なぜ人類史上空前の豊かな生産力を実現した「資本主義」が戦争も貧困も解決できないのか、なぜ中高年のリストラ・失業、若者の就職難と働きすぎ・過労死といった問題が同時におこるのか、といった現実のシビヤな問題に取り組んで欲しいのです。			
到達目標	貨幣のもつ魔力の科学的根拠を理解する 剰余価値・利潤が働く人からの搾取で成り立つことを理解する 成果主義賃金が「頑張るほど奪われる賃金制度」であることを理解する 資本の蓄積と貧困の蓄積は表裏一体であることを理解する 利潤のための経済が過剰な生産と制限された消費を生み停滞に至ることを理解する			
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考	
	平常点			
	小テスト			
	レポート			
	定期試験	100		
	その他			
事前・事後学習	毎回の授業は当日配布する「講義レジュメ」を用いる。そのうえで、月刊『経済』編集部編『変革の時代と資本論 - マルクスのすすめ』、とくに第7章、関野秀明「マルクスの剰余価値理論」を読むことは、予習、復習、両方に役立つ。			
事前受講を推奨する科目	経済学入門			
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『新版資本論』	カール・マルクス	新日本出版社	2020年
	『変革の時代と資本論』	月刊経済編集部編	新日本出版社	2017年
	『経済学辞典』		大月書店	
備考	対面授業、対面定期試験を予定している。			

授業の計画		
1	資本論の経済学とは何か	歴史研究、法則性研究、発生論的・弁証法的方法、階級性
2	商品論1	商品と労働の二重性
3	商品論2	価値形態論
4	商品論3	物神性論
5	商品論4 貨幣論1	交換過程論 貨幣の価値尺度
6	貨幣論2	流通手段 蓄蔵貨幣 支払手段 世界貨幣
7	剰余価値論1	貨幣の資本への転化
8	剰余価値論2	生産過程 絶対的剰余価値論
9	剰余価値論3	相対的剰余価値・特別剰余価値論
10	賃金論1	労働の価値と労働力の価値
11	賃金論2	時間賃金制度
12	賃金論3	出来高賃金制度
13	資本蓄積論1	所有法則の転換
14	資本蓄積論2	相対的過剰人口
15	資本蓄積論3	資本と貧困の蓄積 資本主義の歴史的傾向

授業科目名	簿記原理（公・経）	担当教員名	足立 俊輔				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	企業は利益をあげるために様々な活動を行っていますが、そうした様々な企業活動を測定・評価するのが簿記・会計です。具体的には、「複式簿記」と呼ばれるものを用いて企業活動は仕訳され、仕訳された企業活動は貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に記載され一般に公開されています。本科目では、こうした複式簿記を用いて作成される財務諸表の基本構造が理解できるように講義を進めていきます。 講義の前半ではプリントを配布し、それに沿った講義を行ないます。また、講義の後半では、問題を解く時間を設定し、実際に手を動かしながら理解を深めるようにしています。				
到達目標	本科目の到達目標は、日商簿記検定3級程度の知識・計算能力を身につけることです。具体的には、複式簿記の基本構造が理解できること、単純な企業活動を仕訳する能力を身につけること、仕訳された企業活動を損益計算書、貸借対照表に記入できることを目標にしています。				
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考		
	平常点	20			
	小テスト				
	レポート	10			
	定期試験	70			
	その他				
事前・事後学習	テキストはいずれも最新版を購入すること。 講義には大きめの電卓を購入の上で望むこと。 感染状況により、本学で定期試験の実施ができない可能性もあるが、 その場合は柔軟に対応する予定である（定期試験→レポート対応に変更など）。				
事前受講を推奨する科目					
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記』		滝澤ななみ	TAC出版	最新版
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年
備考	「授業形態」：対面授業 「授業実施の手段」：対面授業（+Google classroomにはプリントPDFのみ掲載） 「質疑応答意見交換の方法」：対面授業 「コンテンツ配信日時」：対面授業後に配信予定 「受講したとみなす条件」： 対面授業でのレポート提出（若しくはGoogleの出席フォームでの送信）				

授業の計画		
1	資産・負債・純資産(資本)と貸借対照表	簿記の意味・目的・種類、 簿記の基礎概念
2	収益・費用と損益計算書	簿記の基礎概念
3	取引と仕訳	取引、勘定と仕訳
4	試算表の作成(1)	決算と財務諸表(その1)
5	現預金	現金預金取引
6	商品売買	発送費、返品
7	売掛金・買掛金	売掛金と買掛金、クレジット売掛金
8	その他の債権・債務	未払金・未収入金・前払金・前受金など
9	手形・振出・受入・引受・取立・支払	受取手形・支払手形、電子記録債権・債務
10	固定資産	取得原価、減価償却
11	税金	消費税・法定福利費・預り金
12	収益と費用、 試算表の作成(2)	収益と費用、決算と財務諸表(その2)
13	元帳の締切りと財務諸表の作成	決算と財務諸表(その2)
14	総合問題(1)	まとめ(試算表を作成する問題をあつかいます。)
15	総合問題(2)	まとめ(精算表を作成する問題をあつかいます。)

授業科目名	現代政治学	担当教員名	水谷 利亮				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	【現代社会における政治・行政の役割・機能について学ぼう！】 わが国の政治・行政においては、政治の説明責任の欠如と機能不全や、官僚制の弊害、政官財学報の癒着などの問題が顕著になっている。この授業では、現代政治に焦点をあてながら、私たちの生活と密接に関連する政治・行政の機能・役割や課題、制度のあり方などに関する基本的な知識と視点を学生が学びながら、主権者・市民として政治や「政府」のあり方を批判的に考えるための素材と機会を提供することを目的とする。 授業では、民主政治のしくみと基本的な考え方を解説し、選挙制度、議会と政党、戦後の国際政治とグローバル化など日本と世界の今がわかるテーマをカバーした教科書を使って、講義形式で進める。補足資料を配布することがある。質問は、授業中に応答すること等で対応する。			
到達目標	現代日本の政治や行政（活動）について理解を深める。 有権者、あるいは主権者・市民として、私たちはどのように政治に関わることができるのかを意識して政治のあり方を考える視点を獲得する。 「小さな政府」や新自由主義にもとづく政治を含め民主政治のあり方について、分析的・批判的に理解するための基本的な知識と視点を学ぶ。			
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考	
	平常点			
	小テスト			
	レポート			
	定期試験	100	キーワードの確認などを含む記述式の試験	
	その他			
事前・事後学習	日頃から新聞やニュースは毎日みておくこと。 授業は基本的にテキストの章立てに沿って進めるので、予め次回の授業内容を必ず1回は読んで予習し、事後に該当する章を読み直して復習すること。			
事前受講を推奨する科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『政治学 第2版』	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会	2022年
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『はじめて出会う政治学 第3版 - 構造改革の向こうに』	北山俊哉、真淵勝、久米郁男	有斐閣	2010年
備考	授業形態：対面授業。 コンテンツ配信：レジュメや関連資料などはgoogle classroom（gc）に前日までに掲示。 テキストは生協などで購入し、授業前後に読んで理解を深めること。 gcには、ecoメールに招待を送るので参加手続きをして入る。 なお、必要に応じて授業内容を周知して変更する場合もある。また、教科書は2022年に改訂され第2版として出版された新しい教科書を使う。			

授業の計画		
1	授業ガイダンス	オリエンテーション
2	民主政治	第1章 民主政治の起源（第1節 古代の民主政治、第2節 近代の民主政治）
3	民主政治	第1章 民主政治の起源（第3節 自由主義と民主政治）、第2章 民主政治の変容（第1節 国民国家と民主政治）
4	民主政治	第2章 民主政治の変容（第2節 民主政治への挑戦、第3節 民主政治の再定義）
5	民主政治	第3章 福祉と政治
6	民主政治	第4章 民主政治のさまざまな仕組み
7	民主政治	第5章 選挙
8	民主政治	第6章 議会と政党
9	民主政治	第7章 政策過程と官僚・利益集団
10	民主政治	第8章 世論とマスメディア
11	民主政治	第8章 世論とマスメディア（補足）
12	民主政治	第9章 地方自治
13	民主政治	第10章 グローバル化
14	民主政治	第11章 民主政治の現在
15	まとめ	全体のまとめ

授業科目名	憲法<憲法>	担当教員名	赤城 浩志				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	「憲法」という文字から何を連想するだろうか。現代日本では、憲法についての議論は様々な場所で見かけることができ、実際にそのような議論に参加したことがあるという人もいよう。しかし、「『憲法』とは何か」と問われたとき、果たしてどのように答えるだろうか。「憲法」とは、最高法規であり、国家の活動はこの「憲法」に基づいて行われる。そして「憲法」とは、国家権力を制限し、国民の権利を保障するものである。これは日本国憲法についても同様である。いうなれば、日本国憲法とは現代日本を形作る大枠である。日本国憲法について理解を深めることは、ひいては日本という国家と社会についての理解を深めることにも繋がるだろう。 そこで本講義では、「人権規定」と「統治規定」で構成されている日本国憲法の中でも「人権規定」の分野を特に重点的に扱い、日本国憲法を概観する。この講義によって、日本という国家がどのように人権を保障しているのか、理解を深めてもらいたい。			
到達目標	憲法が保障する権利について基礎的な知識を身につけることができる。 憲法に関わる現代社会の諸問題について関心を抱き、自己の見解を持ち、かつそれを表現できる。			
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考	
	平常点			
	小テスト			
	レポート			
	定期試験	100	シラバス記載の到達目標に沿って判断する。	
	その他			
事前・事後学習	講義前講義後に教科書の該当範囲、及び配布資料を読むこと。 事前事後学習として、週4時間ほど確保すること。			
事前受講を推奨する科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『図録 日本国憲法 第2版』	斎藤一久・堀口悟郎編	弘文堂	2021年
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『憲法の時間 第2版』	井上典之編	有斐閣	2022年
備考				

授業の計画		
1	イントロダクション——憲法とは何か——	憲法とは何か、原則である立憲主義について解説する。
2	統治機構概論 ——三権分立の仕組み——	三権分立と三権の役割について解説する。
3	日本憲法史	明治憲法とはどんな憲法だったか、日本国憲法がどのように制定されたかについて解説する。
4	平和主義	平和主義の概念について解説する。
5	人権の射程	権利の主体、外国人や法人、未成年の人権について解説する。
6	新しい人権	新しい人権とその根拠である幸福追求権について解説する。
7	法の下での平等	憲法14条の法の下での平等について解説する。
8	精神的自由権	思想・良心の自由と信教の自由について解説する。
9	精神的自由権	表現の自由が保障される理由とその限界について解説する。
10	精神的自由権	集会・結社の自由と、学問の自由と大学の自治について解説する。
11	経済的自由権	職業選択の自由を始めとした経済活動に関する権利について解説する。
12	人身の自由	刑事手続や裁判における権利について解説する。
13	参政権と選挙制度	選挙制度とそれに関する権利について解説する。
14	社会権	生存権を始めとした社会権について解説する。
15	総括	講義全体のまとめを行う。

授業科目名	非営利組織論	担当教員名	川野 祐二				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	この授業は、利益を目的とせず、しかも行政府ではない組織、すなわち非営利組織（NPO）について学ぶ。それは公益法人や共益法人までを視野に入れた幅広い意味のNPOである。講義を通じて受講者は、社会には多様な目的を持った集団が存在し、常に衝突と共存を繰り返していることを学ぶ。また、非営利セクターの全体像を把握し、社会全体の幸福とNPOの社会的使命について考察する。 具体的には、NPOが活躍するに至った歴史的社会的背景を紹介し、近現代以降に起きた社会の問題と、その解決を目指して出現したNPOの役割について解説する。異なる公益的価値観が、時代や状況によって現れ、それゆえに社会正義の実現が困難であること、また企業や行政とは異なる社会サービスを担ってきた非営利組織の存在意義、そしてその組織構造と意思決定機構について理解する。			
到達目標	NPOが流行した背景を解説できる。NPOの全体像を理解する。公益性と非営利性について解説し、非営利組織の種類を説明できる。特定非営利活動法人、公益法人制度改革の背景について理解する。非営利組織の特徴や社会的役割について解説できる。			
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考	
	平常点			
	小テスト			
	レポート			
	定期試験	100		
	その他		授業中の発言等を10点前後の加点対象とする場合がある。	
事前・事後学習	事前・事後学習は、授業ノートを熟読。到達目標に書かれた内容を解説できるように準備。			
事前受講を推奨する科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『公益法人 - 隠された官の聖域』	北沢栄	岩波書店	2001年
	『非営利組織論』	田尾雅夫・吉田忠彦	有斐閣	2009年
備考				

授業の計画		
1	非営利組織入門	非営利組織とは何か。ボランティアとの関係。
2	NGOとNPO	用語の意味とその変遷。
3	日本の講と公益法人	近世までのNPO。歴史のなかの共益・公益組織。近代における公益活動。
4	NGOの登場	国際的非営利組織の活躍。
5	NGOへの注目	市民運動からNGOへ。
6	NPOの登場	特定非営利活動法人の誕生。
7	NPOの急増	非営利法人制度の改革と新しい公共。
8	非営利目的の組織を探す	社会で活躍する非営利組織。非営利セクターの全体像と概念整理。戦後市民活動の変遷。
9	資本主義と環境NPO	市場経済の調整機能。
10	資本主義と労働組合	古典的NPOの存在意義。
11	経済政策と福祉NPO	大きな政府と福祉。
12	エコロジー思想の背景	エコロジー思想のインパクト。環境運動と消費者運動。
13	エコロジー運動の実際	映像で見るDDT、PCBの危険性。
14	NPOの作り方	社会的起業。共益公益のための起業。
15	NPOの経営	ミッションと経営資源の確保。

授業科目名	環境マネジメント	担当教員名	菅 正史				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	本講義では、環境政策の基本的な知識と考え方を学びます。あわせて、環境政策の事例を通じ、公共政策的な考え方への理解を深めます。（企業・団体の活動に伴う環境負荷を管理する「環境マネジメントシステム」と呼ばれる取組がありますが、それは本講義の主たる対象ではありません。） 講義の前半では、環境経済学の基礎を学びます。経済学から見た環境問題の発生要因、環境政策の手段の理論的な意味、環境の価値の評価法などを学びます。 後半は、主として日本の環境政策の考え方と課題について、発展論的に学びます。				
到達目標	環境経済学の基礎を理解する。 環境政策に関する基本的な用語・概念を説明できるようになる。 日本の環境政策の形成経緯を説明できるようになる。				
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考		
	平常点	20	総合評点が70点未満となった場合に、70点を上限に考慮する。		
	小テスト	20			
	レポート				
	定期試験	80			
	その他				
事前・事後学習	主に事後学習に力を入れてください。配布資料やノート・メモを読み返して理解を定着させ、自分の言葉で内容を説明できるようにしてください。				
事前受講を推奨する科目	ミクロ経済学Ⅰ				
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』				
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『環境政策論』		倉阪秀史	信山社	2015年
	『入門環境経済学』		日引聡、有村俊秀	中公新書	2002年
	『環境マネジメント：地球環境問題への対処』		山口光恒、岡敏弘	放送大学教育振興会	2006年
備考	・進捗により、スケジュールを変更する場合があります。 ・ミクロ経済学Ⅰで教わった内容が出てきますが、復習しながら進めます。				

授業の計画		
1	イントロダクション	講義全体の進め方の解説
2	環境経済学の基礎	市場の失敗としての環境問題・交渉による解決
3	環境経済学の基礎	環境政策の手段（直接規制、環境税、排出権取引）
4	環境経済学の基礎	環境政策の手段（直接規制、環境税、排出権取引）
5	環境経済学の基礎	共有資源の管理
6	環境経済学の基礎	環境価値の評価
7	環境経済学の基礎	環境価値の評価
8	前半のまとめ	中間試験と前半の内容のまとめを行う。
9	日本の環境政策の歴史	公害問題の発生、公害対策の基本枠組みの確立
10	日本の環境政策の歴史	環境政策の基本原則（未然防止原則、予防原則、汚染者負担原則、計画的対応、等）
11	環境リスク	環境基準値の考え方
12	日本の環境政策の歴史	都市環境問題への対応、公害対策から環境政策への転換
13	環境アセスメント	手続き的手法による環境配慮・意思決定
14	地球環境問題	持続可能な開発概念・気候変動緩和に向けた国際枠組み
15	全体のまとめ	全体のまとめ

授業科目名	公共マネジメント論	担当教員名	砂原 雅夫				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	地方自治体及び住民、経済主体などの公共空間における行動に関して学び、公共政策の必要性について経済学をベースに整理します。特に、所得移転と福祉政策、市場介入と社会的費用の抑制、補助金政策による政策誘導などについて事例を通じて理解します。また、我が国の公共政策の担い手として地方自治体がどのように展開し、これに対して住民がどのようにかかわってきたかを住民自治の視点でその変化をみていきます。これらのツールを用いて地方都市の人口減少対策、観光誘客対策、環境保全対策、商店街振興対策、教育政策などの有効性について学生の皆さんと考えていきます。				
到達目標	1、公共政策の役割が理論的に整理され、説明できるようになる。 2、地域の課題を行政、住民、経済主体のそれぞれの立場から把握でき、地域において最適な解決手段を身につけることができる。 3、自己の住む、都道府県や市町村の公共政策に関心をもち、課題解決にむけて積極的に参画することができる。				
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考		
	平常点	20	出席状況等		
	小テスト				
	レポート				
	定期試験				
	その他	80	定期試験		
事前・事後学習	新聞やテレビ等で報道される少子高齢化、担い手不足などの地方における行政課題につて常日ごろ関心をもっておいでほしいと思います。ミクロ経済 についてはよく復習しておいてください。				
事前受講を推奨する科目	公共マネジメント特講				
	ミクロ経済 1				
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『公共経済学と都市政策』		中川雅之	日本評論社	2008
	『公共経営論』		田尾雅夫	木鐸社	2010
	『ゼミナール公共経済学入門』		井堀利宏	日本経済新聞出版社	2005
備考	この授業は、行政機関での実務経験のある教員が行う授業です。				

授業の計画		
1	ガイダンス	公共マネジメントと何か。「公共」の概念について歴史を追って学説を紹介します。
2	経済市場における行政	経済市場社会において行政はどのような役割をもつのか学び、大きな政府と小さな政府について論じます。
3	規制と公共財の供給	行政による規制の功罪と行政による公共財の供給について学びます。
4	民主主義の経済	政治と経済、選挙行動の経済について学びます。
5	地方経済	地方分権と地域間の財源再分配について学びます。
6	公共セクター及び公共民間中間組織	公共部門を担う政府、公的企業及び第三セクター、非営利法人、ボラティアについて学びます。
7	国の地方行政政策の変遷	戦後日本の復興期から今日に至る国の地方政策の変遷について行政、住民のそれぞれの立場から見ていきます。
8	公務員制度	公務員組織のあり方、民間職業人と比較しての公務員の位置づけについてみていきます。
9	行政組織	国や地方の行政組織についてみていきます。特に国民、住民との接点に重点を置き考察します。
10	協働のまちづくり	産学官連携やパブリックコメント、政策評価について学びます。
11	事例研究（産業政策）	前半の学習を振り返り、産業政策を事例に行政の民間への関与、補助金政策、産業間の誘発需要について議論します。
12	事例研究（行政パートナー）	前半の学習を振り返り行政と協働するNPOやボラティアの有効性及び課題について議論します。
13	事例研究（環境政策）	前半の学習を振り返り環境政策を事例に環境保全のための補助金、環境規制の功罪について議論します。
14	事例研究（観光政策）	前半の学習を振り返り観光政策を事例に公共投資、補助金政策、民間と行政の協調政策の功罪について議論します。
15	まとめ	公共マネジメントについてこれまでの学んだことを振り返ります。

授業科目名	コミュニケーション心理学	担当教員名	渡邊 尚孝				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	人と人のコミュニケーションには、言語的なものと非言語的なものがある。また、伝えたいことが相手に正確に伝わる保証はなく、相互の多様な自己表現を経ることが必要である。本授業では、自身のコミュニケーション傾向を把握し、多様な表現スキルや「聴く」スキル及び感情コントロールについて学び、建設的な議論ができるようになることを目指す。			
到達目標	・自分のコミュニケーション傾向を把握することができる。 ・非合理的な思い込みにとらわれず、感情コントロールができる。 ・自分らしい効果的な表現スキルを高め、建設的な議論ができる。			
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考	
	平常点	50％	意見交換等による授業貢献、報告・連絡・相談等	
	小テスト	50％	2回実施する。	
	レポート			
	定期試験		実施しない。	
	その他			
事前・事後学習	事前学習では、テキストの該当箇所を事前に読み、課題内容を把握し、意見表明できる準備をしておくこと。授業では建設的な意見交換を重視します。 事後学習では、各自が意見交換等から得られた視点等についてまとめ、質問等をGoogleクラスルームのコメント欄に公開投稿すること。自分の文章は良く吟味すること。平常点に含まれる活動です。			
事前受講を推奨する科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『「自分の気持ちをきちんと伝える」技術 人間関係がラクになる自己カウンセリングのすすめ』』	平木典子 著	PHP	2007年
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『「心理学の基礎 四訂版」』	今田 寛・宮田 洋・賀集 寛 共編	培風館	2016年
備考	【この授業は、臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が行う授業です。】			

授業の計画		
1	対人関係におけるコミュニケーション	授業概要説明。対人コミュニケーションにおける心の動きや様々な表現について理解する。
2	誤解やズレを前提とした交流	自らのコミュニケーションニーズを把握し、誤解やズレを補う交流プロセスを理解する。
3	全てを表現することの限界を知る。	自らのコミュニケーションを振り返る。
4	相手を理解する	相手の準拠枠にそって理解することの大切さを知る。
5	コミュニケーション傾向を理解する(1)	物事の認知傾向を知る。
6	コミュニケーション傾向を理解する(2)	自身の言動を振り返る。
7	コミュニケーション傾向を理解する(3)	自身の優先事項を知る。
8	非主張的なコミュニケーション	不安の中身を知る。
9	攻撃的なコミュニケーション	自分の欲求を知る。
10	自分の感情を自覚する	自分の気持ちを把握し、感情は自然なものと認める。
11	自分自身をオープンにする	アサーションとABCD理論について学ぶ。
12	相手の話に耳を傾ける(1)	アクティブリスニングを実践する。
13	相手の話に耳を傾ける(2)	感情をとらえる姿勢を学ぶ。
14	非言語のコミュニケーション	非言語コミュニケーションの種類を知り、意識的に活用する。
15	問題解決のための議論	DESC法を意識して討論する。

授業科目名	公共マネジメント特講 ＜公共マネジメント実習＞	担当教員名	砂原 雅夫				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この授業は2年次配当の公共マネジメント特講 において学ぶ、地域について自ら課題を見つけ、自ら把握・調査・分析をし自らの考えをまとめるための基礎となる知識を得ることにあります。地方行財政の仕組み、下関市の地理、歴史や現況、地方公共団体である下関市役所の行政について実務面から理解を深めます。また、国勢調査や市町村民経済計算書、REASAS地域経済分析システムなどの行政データの使い方を学びつつ、データを利用して下関市の現状を把握し理想にむけて目標を掲げ課題の解決を図る手法を学びます。また、下関市を事例に地方都市が課題を図るため、どのような政策を行っているか下関市のマスタープランをはじめ行政各分野の計画を概観します。				
到達目標	1、地方行財政の仕組みについて基本的な事項について理解できる。 2 下関市の地理、歴史及び今日の下関市の状況を知り、大学生活を送る下関市の姿を語れるようになる。 3 行政データ及び活用ができるようになる。簡単な経済分析ができる。 4 下関市を通じて地方都市の課題を知り、課題に対しての自分の意見がもてる。 5 公共マネジメント特講（2年次配当）に取り組む基礎知識が身につく。				
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考		
	平常点	20	出席状況		
	小テスト				
	レポート	80	具体的な仮定課題に対して解決策を提言		
	定期試験				
	その他				
事前・事後学習	下関市の全体的な状況を把握するため、下関市の地図に目を通して主要な地名、主要な公共施設、道路や鉄道網、地形や人口密集地や集落の分布を把握しておいてください。Google Mapなどを利用するといいいと思います。このほか、下関市のホームページを閲覧し、主な市の政策を知っておくと理解が深まります。				
事前受講を推奨する科目					
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『特になし』				
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『社会調査のための統計学』		神林博史 三輪哲	技術評論社	2011年
	『政策思考力入門編』		宮司淳 若生達也	ぎょうせい	2016年
	『産業連関分析入門』		入谷貴夫	自治体研究社	2012年
備考	この授業は、行政機関での実務経験のある教員が行う授業です。				

授業の計画		
1	ガイダンス	授業のねらい、進め方について説明します。導入として都市経済学的アプローチから「都市」とは何かを考えていきます。
2	下関市の地理・歴史	下関市を知る背景となる下関市の地理。歴史について近現代を中心に理解します。特に市外出身の方にわかりやすく授業を行います。
3	地方行政の仕組み	下関市を事例に地方都市の行政の仕組みを理解します。特に住民の考えかたをどのように取り入れているか重点的にみていきます。
4	地方財政の仕組み	下関市を事例に地方都市の財政の仕組みを理解します。特に、政策立案のための財源がどのように確保されているか、みていきます。
5	下関市の現状と将来	下関市の現在の姿、将来にむけて取り組んでいることを下関市の行政担当者にお話しいたします。
6	下関市の行政計画	下関市のマスタープランをはじめ、都市計画、福祉、環境、産業、教育文化、行政管理等の各分野の概要計画について理解します。（その１）
7	下関市の行政計画	下関市の行政計画の立案過程について実務者の方のお話を伺います。特に市民の声をどのように反映していくか伺います（その２）
8	行政統計の使い方	行政統計を扱うにあたり、行政統計の基礎、行政データの収集、行政データの性質について学びます。
9	行政統計の使い方	国勢調査やREASAS地域経済分析システムなどを使って下関の人口の現況と推移、構造、他市町との人口の動きをデータで把握します。
10	行政統計の使い方	市町民経済計算報告書を利用して下関市のまちの経済力、経済成長力についてデータでみていきます。
11	行政統計の使い方	産業連関表を利用して地域の産業構造を知る手法を学びます。山口県の産業連関表を実地に読み解いていきます。
12	インタビュー調査・アンケート調査	インタビュー調査のポイント、アンケート調査の基本的な取り組み方を理解します。
13	簡単な統計的分析	インタビュー調査やアンケート調査から得たデータの分析の仕方を理解します。
14	地方公共団体の政策決定	地方自治体において行われる政策決定のプロセス、住民の意思の反映の仕方について下関市を事例に理解します。
15	まとめ	講義の振り返りと公共マネジメント特講 への橋渡しをします。

授業科目名	公共マネジメント特講 1組＜公共マネジメント実習＞	担当教員名	岸本 充弘				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	本授業は、公共マネジメント特講を受講後、地方自治体（下関市）における街づくりの現場（下関駅前の賑わい創出事業）を通じて行政課題や懸案事項等について学ぶとともに、フィールドワークの手順、現場での調査方法、調査結果の取りまとめ等について習得することを目的としています。そのため、行政課題等についての担当者の講話、フィールドワークの流れ、手法、取りまとめ方法等習得後、現場に出てフィールドワーク（聞き取り調査を含む）を実施し、結果の取りまとめと成果報告を各グループに分かれて行います。開講は5月以降の予定です。受講人数の制限があります（3クラス合わせて60名程度）。フィールドワークの内容等については変更となる場合があります。				
到達目標	・行政等の課題や懸案事項について把握できる。 ・事前調査を含めたフィールドワークの手法や流れ等について理解できる。 ・フィールドワークを活かし課題解決へ向けた成果として取りまとめができる。 ・ディスカッションやプレゼンテーションの技術を身に付けることができる。				
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考		
	平常点	60	授業への出席状況、フィールドワークへの参加状況等		
	小テスト				
	レポート				
	定期試験				
	その他	40	フィールドワークの成果報告書		
事前・事後学習	下関に係る様々な情報を、ネット、新聞、テレビ、SNS、下関市HP等から収集しておいてください。				
事前受講を推奨する科目	公共マネジメント特講				
	下関学・下関の産業とみらい				
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年
	『特に指定しない』				
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年
備考	この授業は、行政機関等での実務経験のある教員が行う授業です。				

授業の計画		
1	ガイダンス (5/10)	全体ガイダンス、グループ分け フィールドワークの目的、手順、進め方、報告等
2	フィールドワークの説明(5/10)	下関市産業振興課担当者からJR下関駅前の賑わい創出事業について説明
3	事前調査 (5/17)	フィールドワーク1回目(JR下関駅前の賑わい創出事業)に向けての事前調査
4	事前調査発表 (5/17)	フィールドワーク1回目に向けての各グループ事前調査発表
5	フィールドワーク (5/24)	現場でのフィールドワーク1回目
6	フィールドワーク (5/24)	現場でのフィールドワーク1回目
7	フィールドワーク まとめ (5/31)	フィールドワーク1回目調査結果取りまとめ・疑問点等整理・課題解決方向性の検討(各グループ)
8	フィールドワーク 発表 (5/31)	フィールドワーク1回目調査結果取りまとめ・疑問点等整理・課題解決方向性の取りまとめ・各グループ発表
9	フィールドワーク 事前調査 (6/7)	フィールドワーク2回目に向けての事前調査(聞き取り調査対象者・内容・課題解決方向性の検討等)
10	フィールドワーク 事前調査(6/7)	フィールドワーク2回目に向けての事前調査(聞き取り調査対象者・内容・課題解決方向性の検討等)の取りまとめ・各グループ発表
11	フィールドワーク (6/14)	現場でのフィールドワーク2回目(聞き取り調査等)
12	フィールドワーク (6/14)	現場でのフィールドワーク2回目(聞き取り調査等)
13	成果報告取りまとめ (6/21)	JR下関駅前賑わい創出に向けての成果報告とりまとめ
14	成果報告・発表 (6/21)	JR下関駅前賑わい創出に向けての成果報告とりまとめ・発表(各グループ)
15	まとめ (6/28)	各クラス代表成果発表・全体のまとめ